



りんご生産情報号外
(春作業について)

令和8年3月26日発表
青森県「農林水産力」強化本部

発芽が早まる見込み、春作業を急ごう!

I 概要

2月中旬以降の気温が平年より高めに経過したため、発芽が早まる見込みである。

このため、剪定や枝片付けの作業を急ぐ。加えて、施肥作業や薬剤散布の準備、霜害対策などに取りかかる。

ナシマルカイガラムシの発生が多い園地では、「発芽前」にマシン油乳剤50倍を散布する。

II 生育情報

1 生育の進み

2月中旬以降の気温が高めに経過したため、平年より発芽が早まる見込みである。
なお、消雪日は、黒石で3月24日と平年より3日早かった。

○りんごの発芽日 (月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年				
	平 年	4.5	4.3	4.5	4.6
	前 年	4.4	3.31	4.3	4.7

注) 発芽日：頂芽の頂部が破れ、青味の現れたものが3個以上認められたとき
平年値：2006年～2025年の20か年平均

2 作業の重点

(1) 剪定

剪定が遅れると春作業に支障をきたすので、できるだけ早く終える。

遅れる場合は、粗抜き（大枝抜き）を主体に実施し、施肥、薬剤散布を優先した後にハサミ入れを行う。

(2) 穂木の採取

雪害を受けた樹の復旧のために、接ぎ木用の穂木をすみやかに採取して準備しておく。なお、登録品種の自家増殖は原則として育成者権者の許諾が必要となるため注意する。

(3) 枝片付け

枝片付けが遅れている園地は急いで行き、薬剤散布に支障をきたさないようにする。間に合わない場合は木の根元によせてスピードスプレーヤの走路を確保する。ただし、剪定枝は園内に放置したり積んでおいたりすると、腐らん病、リンゴハダニ、ハマキムシ類の発生源となるので早めに処置する。

(4) 雪害を受けた樹の処置

樹皮と木質部が3分の1以上残っている枝は、修復が可能なので、以下のように処置する。なお、3分の2以上裂開している枝は、ゆ合の見込みがないので早めに剪去し、塗布剤を処置する。枝折れ、裂開などの被害部も腐らん病や銀葉病の侵入門戸となるので、傷口に塗布剤を処置する。

ア 普通台樹

主枝や垂主枝、側枝など大きな枝で回復可能な枝は傷口を密着させて、かすがいやボルト等で補強し、支柱で支える。

なお、処置方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルに掲載している。
(<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>)



二次元コード1
：準備

二次元コード2
：裂開部の整形

二次元コード3
：裂開部の接合

二次元コード4
：裂開部の固定

二次元コード5
：主枝の固定・裂開部の保護

イ わい性台樹

側枝のゆ合が可能な場合は、早い時期にビニールなどできつく縛って傷口を密着させ、ひもなどで吊り上げる。側枝が不足となった樹は目傷等により側枝の発生を促したり、主幹部に接ぎ木して側枝の補充を図る。

(5) 野ネズミ対策

地際部付近の樹皮を完全に一周して被害された場合は、盛土を行い、カルスの形成を促すと同時に、可能なものは寄せ接ぎを行う。地際部以外の主幹では、被害の程度に応じて塗布剤を塗布するか、テープを巻いてカルスの形成を促す。

成り枝を被害された場合は、健全部または被害が少ない部位まで切り戻す。被害が甚だしいものは植え替えを行う。

(6) 薬剤防除などの準備

スピードスプレーヤなどの点検・整備を行うほか、春作業に使用する資材などを早めに準備する。

(7) 凍霜害対策

花芽の耐凍性は、生育の進みとともに低下し、花蕾着色期までは約 -2°C に1時間置かれた場合、障害が発生する恐れがあるので、気象情報に十分注意し、防止対策を必ず行う。

(8) マメコバチの活動時期の調整

マメコバチの活動が早まると見込まれるので、巣筒の状態を確認し、まゆを破るカチカチという音がし始めた頃に、巣箱を $0\sim 5^{\circ}\text{C}$ の冷蔵庫に入れて保管する。

(9) 病虫害対策

ア 黒星病、褐斑病対策

りんごの黒星病、褐斑病の菌密度を低下させるため、速やかに越冬落葉を除去するかすき込む。

なお、落葉収集機を利用すると被害落葉を効率的に収集できる。

又は、フロンサイドSC若しくは宮内石灰硫黄合剤を落葉に散布する。



落葉収集機

イ ナシマルカイガラムシ対策

ナシマルカイガラムシの発生が多い園地では、「発芽前」にマシン油乳剤50倍を

特別散布する。

ナシマルカイガラムシ防除剤（対象：越冬幼虫）

薬剤名	倍数	使用時期
ハーベストオイル トモノールS アタックオイル スプレーオイル	50倍	発芽前

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 りんご属及びなし属植物の中国産花粉を使用しないで！ 》

中国において、火傷病の発生が確認されたため、中国産なし、りんごの花粉等の輸入が停止されました。

既に輸入された中国産花粉を介して火傷病がまん延することがないように、生産年にかかわらず、中国産花粉や来歴不明の花粉を入手・使用することがないようにお願いします。

《 モモシクイガ等防除のため、交信攪乱剤の積極的な利用を！ 》

交信攪乱剤（コンフューザーR）は、

- ①温暖化でモモシクイガの被害が増えていること
- ②農薬の再評価制度に伴い、使用可能な殺虫剤が減少しつつあること
- ③薬剤抵抗性害虫が顕在化していること

などの理由により、令和6年からりんご病虫害防除暦の基準薬剤となりました。

ハマキムシ類やシンクイムシ類など複数の害虫への効果が期待できますので、ぜひ自園地へコンフューザーRを導入してください。

連絡先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：017-722-1111代表
内線5148、5149
017-734-9492直通